

一般社団法人 日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

会報 JASCG

- 1◎巻頭言
- 2◎第37回研究大会（京都大会）のご案内//
第35回中央研修会報告
- 3◎新入会員紹介—沖縄県支部—
- 4◎スクールカウンセラー情報
- 5◎支部のキラリ
- 6◎—支部活動報告—【北九州市支部】//研修委員会
- 7◎調査研究委員会//認定委員会//学会誌作成委員会
- 8◎広報委員会//ガイダンスカウンセラー関連情報
- 9◎会員の著書紹介//学会新刊特別割引のご案内
- 10◎会長コーナー//事務局より//編集後記

第76号

巻頭言 私と教育相談 「チーム学会」で 「チーム学校」の推進を



広報委員長
松本 直美

私は、「チーム学会」を理想に、活動と実践に努めています。「チーム学会」とは、学会員同士がつながり、相互援助が機能して、間接的にでも児童生徒のチーム支援になっていること、陰からでも「チーム学校」の支えになっていることです。

本学会は、多様な職種やキャリア、特性や技量をもった人材が集い、特に、小学校・中学校・高校の教員が多いという特色があり、それが強みでもあり

ます。加えて、同列の仲間として専門性の高い大学の先生方、経験豊富なスクールカウンセラーや多様な有資格者、管理職やその経験者がいることも強みです。支部活動や全国レベルの研究大会・研修会などを通して、得意分野や援助資源としての資質を知り合い、それをきっかけに学び合いや相互援助が生まれ、それを継続していける仲間が必ずいます。せっかく入会したのであれば、学会員同士が特性や実績・経験を活かし合い、ニーズと援助資源として提供できることが合致したら、支部の壁を越えてでも、互助・協働する仲間になれるとよいです。そのようなチームが林立し、機能していくことが理想です。

これから学会活動が長く続く若手・中堅の会員の皆さんには、新たな知見や個人のスキルアップだけでなく、人とのつながりを学会に求めてほしいです。経験豊富な学会員の皆さんには、これからを担う方達と積極的に関わり、人と人をつなぐ役割も果たしてほしいです。それぞれ、多様な人材が溢れる全国の活動にも顔を出し、つなぎ、つながることを願っています。交流を通して、必然的に、あるいは必要感から進んで結び付き、相互援助が効果的に機能する人の輪を増やし、広げてほしいです。それが会員一人一人の力量や実践力を高め、多くの「チーム学校」を支え、進展させ、児童生徒の発達支援や課題援助の充実につながり、ひいては学会の発展にもつながると信じています。

★第37回研究大会 (京都大会)のご案内

1. 期日と場所

令和7年8月9日(土)・10日(日)
龍谷大学付属平安高等学校・中学校

2. 会場について

＜龍谷大学付属平安高等学校・中学校＞

- ・高校野球(甲子園)で優勝も果たした文武両道の高等学校です。西本願寺に隣接した校舎の高校の教室をお借りします。そのため、野球部などの活動に配慮し、出入りに使用する校門の指定をさせていただく可能性もあります。
- ・確実な交通手段は、JR嵯峨野線(京都駅31～33番ホーム)からひと駅目の「梅小路京都西」駅で下車していただき、徒歩7分です。
- ・京都駅からバスも出ていますが、乗り場を間違えないようにしてください(詳細は二次案内をご覧ください)。

3. 大会テーマ

「子どもの願いをつなぎ、分かち合う学校教育相談—多職種連携・協働によるチーム学校—」

- ・子どもたちが心身共に安心・安全感を膨らませ、つながりのなかで成長・発達していくために、学校教育相談の果たす役割は何か。どのように多職種が連携・協働をしていくのか、その際の教職員の専門性とは何か。どのような実践が求められるのかについて議論したいと思います。

4. 記念講演と本部・京都府支部合同企画シンポジウム

＜記念講演＞ 講師：野田正人氏(立命館大学教授)

演題「多職種連携・協働によるチーム学校(仮)」

＜本部・京都府支部合同企画シンポジウム＞

「学校教育相談を軸にしたチーム学校の展開」

- ・大会テーマに沿った講演を生徒指導提要の改訂にも関わり、京都・滋賀を中心にスクールソーシャルワークやスクールカウンセリングの推進に尽力されてきた野田正人先生にお願いしました。
- ・本部・京都府支部合同企画シンポジウムは、昨年度の学会本部企画シンポジウム「学校教育相談—今までとこれからを考える—」での議論を引き継ぎ、

さらに発展させたいという思いで企画しました。

5. 参加申し込みについて

＜申し込み期間＞ 5/20正午～7/28まで

＜申し込み方法＞

- ・日本学校教育相談学会のホームページから願います。
- ・大会参加費は二次案内でご確認ください。また、原則として当日参加はございません。必ず上記期間内にお申し込みください。

6. 発表申し込みについて

＜申し込み方法＞

- ・京都大会実行委員会事務局長あてにメールでお申し込みください(申し込み書は学会HPからダウンロードできます)。

＜申し込み先＞

- ・第37回研究大会(京都大会)実行委員会事務局長 赤尾 宗一

アドレス：jascgkyoto2025@gmail.com

- ・発表申し込みは現在受付中です。詳細は二次案内をご覧ください。

昨年度に引き継ぎ、対面による研究大会を計画しました。夏の京都は思いのほか暑く、インバウンドの観光客も年々多くなっております。早めに各自でホテルを確保していただき、ご参加のほどお願いいたします。

(文責：京都大会実行委員長 山岡 雅博)

★第35回中央研修会報告

第35回中央研修会を1月26日(日)にZoomによるオンラインで開催いたしました。

今回の中央研修会は、午前にコース別講座、午後はパネルディスカッション、そしてオンライン交流会という流れで実施いたしました。

参加者数は、105名でした。

それぞれのプログラムについて、参加者数と簡単な感想を報告させていただきます。

【コース別講座】(9:30～12:30)

＜Aコース＞ ニューロダイバーシティの視点で考える子どもたちの「学びの多様性」

講師：村中直人氏（一般社団法人子ども・青少年育成支援協会代表理事）

参加者数：43名

ニューロダイバーシティの考え方が特別支援に特化したものだと思っていたため、そうではないのだと気づき大変学びになりました。

＜Bコース＞ 性的マイノリティの理解と支援

講師：葛西真記子氏（鳴門教育大学教授）

参加者数：20名

性的マイノリティについてはある程度知っているつもりではありましたが、誤解や偏見があったことに気付かされました。

＜Cコース＞ 特異な才能のある児童生徒に対する理解と支援

講師：松村暢隆氏（関西大学名誉教授）

参加者数：23名

ギフテッドという言葉を使わず、特異な才能という言葉を使う理由がよく理解できました。教師の感性や気づきが大切ですね。

＜Dコース＞ 外国にルーツを持つ子どもの理解と支援

講師：李原翔氏（神奈川県立地球市民かながわプラザ相談員）

参加者数：14名

外国にルーツを持つお子さんに関して、日本語の問題なのか発達障害なのかの識別など、支援の難しさを理解することができました。

【パネルディスカッション】（13:30～16:30）

＜テーマ＞ 「誰一人取り残さない」教育— インクルージョン型実践の可能性と課題—

＜司会・指定討論＞

- ・和井田節子氏（NPO 法人子ども支援地域プラットフォーム代表）

＜パネリスト＞

- ・三谷幹氏（名古屋市小学校教諭）……担任が行う多様な子ども達への支援
- ・高橋由衣氏（公益財団法人スペシャルオリンピックス日本職員）……スペシャルオリンピックス日本での実践とスウェーデン小中学校における多様性への支援
- ・副島賢和氏（昭和大学大学院保健医療学研究科准教授）……病いによる傷つきを抱えた子どもたちの回復・成長に必要なかわり

参加者数：72名

パネリストの皆さんの発表内容が深みのある興味深いものであり、今後の実践に役立てていきたいと強く思いました。

【オンライン交流会】（17:00～18:00）

参加者数：18名

参加する前は不安でしたが、ファシリテーターのお蔭で楽しく交流できました。

運営に当たっていただいた、スタッフの皆さまに記して感謝申し上げます。

（文責：研修委員長 会沢 信彦）

★新入会員紹介—沖縄県支部—

沖縄県立知念高等学校養護教諭の上原厚子先生を紹介いたします。

先生が日本学校教育相談学会へご入会された理由は、生徒や保護者、教職員への丁寧な支援のために、学校における教育相談の知識と技能をしっかりと学びたいということからでした。昨年度の日本学校相談学会九州・沖縄地区研修会「沖縄大会」では、実行委員の1人として大会運営に貢献しました。これまで、養護教諭として県立高等学校にお勤めになられた後、県教育委員会では産業保健スタッフとして5年間勤務し、県立学校教職員のメンタルヘルスケアに従事されました。また、沖縄県高等学校カウンセリング研究協議会理事長を務めたほか、日本アンガーマネジメント協会認定アンガーマネジメントファシリテーターとして児童生徒や教員対象の研修講師等を行うなど幅広くご活躍されております。

公認心理師でもある先生は、現在は再び養護教諭として、生徒、保護者、教職員の心身の健康を守るためにご尽力されています。先生の活動は高く評価され、令和6年度の第55回全国学校保健・学校医大会においては、日本医師会長から表彰を受けました。最後に本人からのコメントを添えます。

「はじめまして。この度、日本教育相談学会に加入させていただきました、上原厚子と申します。学会が開催する研修会等を通して、自己研鑽を図り、皆様との情報交換を楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。」

（文責：沖縄県支部副理事長 下條 満代）

★スクールカウンセラー情報

「～似て非なるものについての一考察～」

長崎県支部 松永 博幸

相談室



中学校教員を定年退職した後、本学会の「学校カウンセラー資格」をもって、スクールカウンセラー（以下SCと記す）に採用された。この二つの職業を経験して思うこと（あくまで私見、ご容赦願いたい）を述べてみたい。

教員元年は奇しくも「金八先生」がスタートした年。教育現場に身を置いた者の一人として、このテレビドラマが教育界にもある程度のセンセーショナルな影響を与えたものであったことは間違いないだろうと今も思っている。詳細な記憶ではないが、あるシーンが脳裏に残る。金八先生のクラスの女の子がスーパーで万引きし、担任、養護教諭、母親がその店に呼び出される。警察に引き渡すという店長に、金八先生は、「すみません。こんなことは二度としないように言い聞かせますから、今日のところは許してもらえないか」とひたすら謝る。その横でツンとしていた母親が「万引き？冗談じゃない。私はうちの娘を信じています」とわが子をかばっているかのような発言に、当の本人は何故か母親に背を向けている。母の言動にあきれ返る店長、そんな空気の中で養護教諭がおもむろに母親に放ったひと言、「何を信じるか…お母さん、私は、この子の立ち直りを信じます」と。新米教師だった私の心に深く突き刺さった言葉だった。それからしばらくたった頃、勤務校の職員室で「あの子のウソにあきれてものが言えない。騙されないようにしなければ」と怒り心頭の女性教諭に、学年主任のN教諭が、

「100回騙されても、101回目を信じてやらんば」と。思わずこのドラマのシーンが重なった。人間だもの。誰だって間違いは起こすし、まして子どもだったらなおさらのこと。「見逃さない生徒指導」が大手を振っていた時代、N教諭の「誰一人見捨てない」を指導の根幹に据えた取り組みに学ぶ機会が何度もあった。学校や教室は陽の光が当たる場所。教室の隅っこで膝を抱えてしゃがんでいる子はいないか、その子にどうやったら温かな光が当

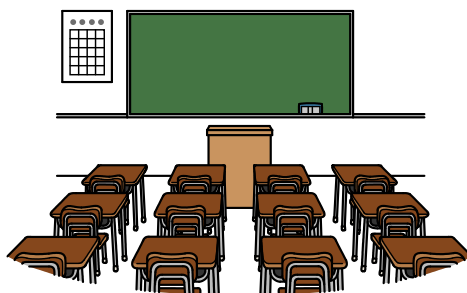
たるか、そこに目を凝らそうと肝に銘じた。

時は過ぎ、退職後本県のSCに採用された折にも、私の「めざすSC像」は、反社会的であれ、非社会的であれ、自分の居場所を見失っている子どもたちに対して、「大丈夫、必ず君の居場所はあるはず。一緒に見つけよう」という姿勢であった。しかしながら、SCと教職「似て非なるもの」という部分も少なからず感じるようになった。ひと言でいえば「月と太陽」。今年の元旦、運よく初日の出に手を合わせることができた。日の出に力をもらい夕日に感謝。太陽は感動の象徴。これは、夜という存在があってこそその日の出や夕日であろう。朝、太陽にエネルギーを浴びれば、夜は月や星の世界が安らかな眠りを誘い、疲れを癒す。

SCとしての私と出会う子どもたちは、何かに辛さ、息苦しさを感じ、そこから抜け出せないどん底の世界に迷い込んでしまったか弱き小羊。そこはまさに一寸先も見えない暗闇のトンネル。SCとしてせめて薄明かりでも照らせたらとの思いで、まずは信頼関係を構築することから始める。月の明かりは夜道を照らす道しるべ。足元から先に視線が上がれば、きっと進む道がうっすらとも見えてくることを信じて一緒に歩いてきた。

ある勤務校での3学期、教頭先生から卒業アルバムに載せる職員写真を個別に撮りたいとの話。ふと「月と太陽」を思い返し、思案の末掲載を遠慮させてもらった。達観など大それた思いは微塵もない。ささやかなSC業務を経験した私見ではあるが、太陽の下で働いていた頃を懐かしみながら、月夜で生きるもこれまた良しと感じ入っての我儘だった。

（担当：鈴木 由美子）



☆支部のキラリ！☆

岐阜県支部からは郷田賢先生を紹介します。先生は支部の会員歴が24年と長く、支部事務局長を始め、理事・事務局などを23年歴任し、今年度からは副理事長を務めていただいています。公立小・中学校での教員生活において、教育相談の理論を基に実践される姿に敬服すると共に、支部会員からの人望も厚く、バランス感覚が優れている、とても魅力的な先生です。

「日常生活の中で行う教育相談」

岐阜県支部 郷田 賢

岐阜県支部の郷田賢と申します。私が実践の中で大切にしていることは「いかにして日常生活の中で教育相談の取り組みを行うか」ということです。

私は教員になる前に公立中学校の相談員や不登校児童生徒を対象としたキャンプのボランティアなどに従事していました。そのため教員になった際には「自分の学級から学級に適応できない児童生徒を出したくない」という思いが強くありました。そこで、悩んでいる児童生徒への個別相談だけでなく、岐阜県支部の研修会等で学んだグループアプローチの手法等を取り入れたり、心理アセスメントを利用したりして取り組み始めました。しかし、教科の授業や学活だけでなく、朝と夕方の単学活ですらも「やらなければならないこと」が多く、集団作りや適応指導に取り組む時間どころか、個別に相談する時間の確保も思うようにいきませんでした。そこで、「日常生活のやらなければいけない取り組みの中で教育相談につながる取り組み」を工夫していこうと考えました。

例えば「どうせ体育の授業で『体ほぐし運動』を行わないといけないのだったら、シェアリングを意識した振り返りの時間を設定してSGEっぽくしてしまおう」、「どうせ席替えを行うのだったら、より

多くの仲間と席が近くなって関わる機会を確保できるように、毎週行うようにしてしまおう」、「どうせ生活日記への一言コメントを教師が書くのだったら、仲間からも応援の言葉を掛け合えるように、教師だけでなく仲間からのコメントも書くようにしてしまおう」という具合です。

もちろん年に数時間は学活を使ったグループアプローチに取り組んだり、どの取り組みを行うかはアセスメント等を参考に子どもたちの負担にならないよう配慮したりもしてきました。

このような取り組みの中で、不登校児童生徒が減るだけでなく、仇を見るような目で教師を見ていた児童生徒が穏やかな表情をするようになったり、トラブルが起きたときに「自分たちで解決してみるから、先生は待っていて」と自分たちで仲裁しようとしてくれたりと、学校生活を豊かに送る子どもが多く育ってくれたことを感じています。

これまでの実践を振り返って改めて感じていることは、「やらなければならないことの中でも、教育相談に関する理論を理解したうえで実践に生かす視点を持っていれば、教育相談的な取り組みはいくらでもできる」ということや、「支援を必要としている児童生徒本人が変われなくても、周りの成長を促すことで支援を必要とする児童生徒の居心地の良さは変えることができる」ということです。これは最近耳にする「発達支持的生徒指導」「インクルーシブ教育」「多様な背景を持つ児童生徒への対応」などの実践にも通じていると感じています。

(担当：小川 正人)



★支部活動報告-【北九州市支部】

北九州市支部は現在会員数 14 名。研究の方向性としては、学校現場の抱える課題に対し、学校相談力の向上を目指し、専門性を高めて解決していくことです。研究のテーマは、不登校問題、子どもの不安症や愛着障害について、カウンセリング技法、コミュニケーション能力の向上、児童理解、保護者対応、発達障害児童生徒への対応等が挙げられます。

会議の持ち方としては、オンライン会議やグループラインを使い、会員に負担がかからないようにしています。今年度の研修会は3回（うち1回は「九州・沖縄地区研修会福岡大会」に参加）行いました。参加者は会員の呼びかけにより増えてきています。職種は小学校、特別支援学校、幼稚園の教諭、養護教諭、指導教諭、管理職、特別支援教育相談センター指導主事、スクールカウンセラー、放課後デイサービス管理者と、様々な立場から学びを深めようと集まっています。

現在は、「令和7年度九州・沖縄地区研修会北九州市大会」に向け、大会テーマ「多様化する子どもの安心・安全を支える学校教育相談」と題しまして準備を進めております。令和7年11月15日（土）の一日開催ですが、共通講義、4つの分科会において素晴らしい講師の先生方をお呼びし、北九州市の小倉リーセントホテルで開催します。多くの皆様のお越しをお待ちしております。

以下、令和6年度の本支部の活動を報告いたします。

1. 総会・オンライン会議

(1) 北九州市支部総会（対面）

- ・令和6年6月29日（土）

(2) オンライン会議（大会準備に向けて）

- ・第1回オンライン会議 7月25日（木）
- ・第2回オンライン会議 9月9日（月）
- ・第3回オンライン会議 10月7日（月）

2. 第1回研修会（総会後）

- ・内容：「子どもの不安への支援を考える」
- ・講師：福岡教育大学准教授 河村 暁 氏
- ・参加者：31名

(3) 第2回研修会（九州、沖縄ブロック研究大会福岡市大会に参加）

- ・期日：令和6年11月16日（土）・17日（日）
- ・参加者：9名

(4) 第3回研修会

- ・期日：令和7年2月1日（土）
- ・内容：「教育相談に生かすカウンセリング技法」～演習や事例を通して～
- ・講師：福岡教育大学教授 西山 久子 氏
- ・参加者：24名



（文責：北九州市支部事務局長 島津 弘子）

★研修委員会

【第26回夏季ワークショップについて】

本稿執筆時は、第35回中央研修会が終わったばかりですが、研修委員会としては、既に夏季ワークショップの準備を進めております。テーマと講師もほぼ確定していますので、お知らせいたします。

【日時】7月27日（日）

A、B、Cコース 9:30～12:30

D、E、Fコース 13:30～16:30

【開催方法】オンライン

<Aコース> 一瞬で良い変化を起こす面接のコツ

講師：半田一郎氏（リソースポート代表）

<Bコース> 学校、学級における心理的安全性

講師：一色翼氏（川口短期大学専任講師）

<Cコース> 子育てバーンアウトを理解する

講師：古谷嘉一郎氏（関西大学総合情報学部教授）

<Dコース> ブリーフミーティングによるケース会議

講師：鹿嶋真弓氏（立正大学心理学部教授）

＜Eコース＞ 教育相談に活かす修復的対話
講師：綾城初穂氏（駒沢女子大学心理学類准教授）
＜Fコース＞ 論文作成講座
講師：学会誌作成委員会
ご参加をお待ちしています。
（文責：研修委員長 会沢 信彦）

★調査研究委員会

調査研究委員会では、「学校における教育相談のあり方」をテーマに、①教育相談コーディネーターに関する研究、②教員に求められる教育相談の力に関する研究、の2つに取り組んでおり、質問紙調査やインタビュー調査を行いながら検討を進めてきました。2024年8月の愛知大会の自主シンポジウムにおいて、これまでの調査から見てきた結果の一部を調査研究委員より発表させていただきましたが、「教員に求められる教育相談の力」については、小学校、中学校、高等学校教員42名の自由記述を分析した結果、「教師の信念、学び続ける姿勢」、「アセスメントする力」、「関わる力」、「集団づくり」、「コーディネートと環境整備」の5つのカテゴリーが見出されました。そして、その5つのカテゴリーの内容について検討を重ね、現在、28項目から成るチェックリスト案を作成したところです。このチェックリストは、教員が自分自身の教育相談の力をチェックする際や、教育相談の研修について考える際などに活用していただけるものになればと考えて、作成を進めてきたものになります。

今後、学会員の皆様にも質問紙調査へのご協力をお願いし、「教員に求められる教育相談の力」に関するチェックリストを完成させていきたいと考えています。後日、ご協力をお願いするご連絡をさせていただく予定であります。その際は、質問紙へのご回答にご協力よろしくお願いいたします。

（文責：調査研究委員長 金子 恵美子）



★認定委員会

○第3回「学校カウンセラー事例研究会・情報交換会」について

令和6年11月23日（土）10:00～12:00 オンラインにて、令和4年度及び5年度に学校カウンセラー資格を新規取得された方を対象にした「学校カウンセラー事例研究会・情報交換会」を開催しました。全国各地から7名の参加があり、今回は認定委員からの提供事例をもとに2班に分かれてインシデントプロセス法による事例検討を行いました。その後、それぞれの学校教育相談の実践状況などについて、自由に情報交換しました。

参加者からは、「事例検討会は、勉強になると改めて実感した。異なる職種や校種の方の考えを聞くことで新たな視点が持てる」「初担任をフォローすることも多いので、今回の事例は教師への寄り添い方の勉強にもなった」「解決策が多様で、さっそく授業で実践したら子どもたちの意欲が高まった」「インシデントプロセス法を初めて体験し支部でも行った」

「資格取得後、自己研修にも限りがあるのでこのような機会は貴重だ」等々の感想や実践報告をいただきました。

○認定審査状況について

今年度は、学校カウンセラー新規申請、更新申請の要件改定後、初の実施年度でした。

新規申請者は36名、更新申請者は51名でした。また、学校カウンセラースーパーバイザー資格認定申請者は1名でした。学校カウンセラー及び学校カウンセラースーパーバイザー新規申請者の面接審査を2月1日（土）・2日（日）に東京会場にて実施しました。

○更新申請手続きの延期について

更新申請手続きは1年間延期が可能です。期日までに申請をお忘れだった方は下記、担当へ3月末日までにご連絡をお願いします。令和7年度に手続きすることで資格継続できます。ただし、次の更新は4年後となります。

（文責：認定委員長 築瀬 のり子）

★学会誌作成委員会



現在、学会誌第35号の編集を進めています。本年度の投稿論文は10本でした。第35号は令和7年6月発行予定です。多くの論文

が掲載されることを願っております。

投稿された論文は、複数の委員の査読を経て審査結果をお返しします。その際、修正意見もお知らせします。修正後の再投稿、あるいは再々投稿により掲載に至る論文がほとんどです。委員による再審査、再々審査を経て論文がブラッシュアップされていくことを期待しています。

また、令和4年度から開始しました「論文作成連続講座」は8名の方が受講されました。講師は3名ですので、充実した研修ができました。作成された論文の投稿をお待ちしています。来年度以降もこの講座を継続します。定員は9名ですが、多くの方のご参加をお願いいたします。

さて、すでにお知らせしていますように、学会誌第33号以降に掲載される論文のうち執筆者の了解が得られたものについては、学会ホームページ及びJ-stageで公開する予定です。学会誌第32号以前に掲載された、事例を取り扱っていない論文については、執筆者の希望があれば公開可能です。ご希望の方は、学会誌作成委員長までメールでお知らせください。メールアドレスは以下の通りです。

ytknkmr7@rs.tus.ac.jp

(文責：学会誌作成委員長 中村 豊)

★広報委員会

まずは残念なお知らせからです。ほんの森出版の『月刊学校教育相談』が、令和7年2月発売の3月号をもって休刊となります。学会の掲示板も長年掲載され、広報委員会が執筆依頼や校正など、一端を担ってききましたが、その業務も終了となります。出版社は継続し、学校教育相談に関わる書籍の編集・出版は続くとのことです。会報でも紹介しており、「学校教育相談 理論と実践のガイドブック」が発売になっています。

休刊の要因の一つとしては、ネットやSNS等による情報収集の普及もあるようです。少し複雑ではありますが、学会では期を同じくしてSNSの運用を開始します。広報委員会の新たな業務として、事務局とともにこれに取り組みます。現在、XとFacebookを想定しています。本部のみならず、支部の研修案内等の情報発信にも活用していただくことで利用が増えると思います。具体的には、2月下旬の全国役員会で運用の骨子が固まり、この会報の送付や配信とともに、利用方法が周知されていると

思います。

最後に、今回、巻頭言を書かせていただきました。「チーム学会」を標榜し、学び合い、支え合うチームがいくつも機能していくことを願いとして綴りました。この会報にもその願いを込めています。登場した人に共感し、その人とつながりたい、情報がもっとほしいと思ったら、事務局か作成担当の広報委員長にお問い合わせください。

(文責：広報委員長 松本 直美)

★ガイダンスカウンセラー関連情報

日本スクールカウンセリング推進協議会では、文科省の「令和6年度いじめ対策・不登校支援等推進事業」の委託を受けて、「(2) いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりに関する調査研究④心理・福祉に関する教職員向けの研修プログラムの開発に関する調査研究」に専門チームで取り組み下記講座を開始します。

SC 専門研修プログラム運営委員会(新井邦二郎委員長、「受講ガイド」)

ア) プログラムの名称は「スクールカウンセリング 専門研修プログラム」と確定した。

イ) 全61講座(第1分野「スクールカウンセリングの専門基礎」)

ウ) 受講者コースは3コース。①「全科受講者(全科フル学修コース)」②「全科受講者(全科動画学修コース)」：eラーニング61講座 ③「科目等受講者(13講座トライアルコース)」：トライアルのため科目講座の一部分を体験的に学修するコース。

・科目1～14の全講座の合否判定結果をもとに「プログラム運営委員会」が「修了判定」を行い、理事会の議を経てプログラム全体の修了証明書(「修了証」)を発行する。

・修了証のほかに全科受講者(全科フル学修コース)には、領域別専門研修(資料の末尾箇所参照)として「不登校専門研修」「いじめ専門研修」「自殺対応専門研修」「発達障害専門研修」「グループ対応専門研修」の5つの「研修証明書」を発行する。詳細は、ホームページ <http://jsca.guide> を参照してください。

(文責：一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会理事 学校カウンセラー・ガイダンスカウンセラー 加勇田 修士)

★会員の著書紹介

『学校教育相談—理論と実践のガイドブック—』が出版されました！

【なぜ出版したのか】

春日井会長は、本書の「はじめ」において次のように述べています。「本学会企画の『学校教育相談ハンドブック』が発刊して約20年が経過しました。生徒指導提要が改訂され、教育相談は生徒指導の中心的役割を担うものと明記されました。学校教育相談も多様に展開され、実践や研究の蓄積が行われてきました。そこで、現段階における学校教育相談のとらえ方（理論）や具体的な取り組み（実践）の在り方について、学会として発信する必要があると考え企画・出版しました。」

【どのような内容なのか】

このガイドブックは理論編・実践編・学会活動編の3部で構成されています。また理論編と実践編はそれぞれ3つのテーマに分かれて書かれています。

本学会会員でもあり、各分野で造詣の深い方々に執筆していただいています。

理論編：冒頭で生徒指導提要の改訂に関わった、

八並先生、新井先生、栗原先生が執筆。

・『生徒指導提要』と学校教育相談

八並先生は、生徒指導提要の歴史的な経緯や改訂された3つの特色を解説し、これからの教育相談に求められるものを述べています。さらに、栗原先生、新井先生が執筆。

・学校教育相談の視点を軸に

春日井先生は、子どもの最善の利益の実現を目的に、学校教育相談を軸にした学級活動や特別活動に活かす取り組みを紹介しています。さらに、高橋先生、藤原先生が執筆。

・教育相談体制と他職種連携

小玉先生は、チームが機能するための職場風土づくりに必要なポイントや学校の実態に即したチーム作りを紹介しています。さらに、西山先生、金子先生が執筆。

実践編：実践編では、3つのテーマで理論に基づく実践を執筆。

・集団づくり

会沢先生は、多様な子どもたちを理解する視点を解説し、私たちにできることを提言しています。さらに、松山先生、真田先生、山田先生が執筆。

・個別課題への対応

中林先生は、不登校支援について、学校教育相談をベースに3つの視点からの具体的な支援を紹介しています。さらに山崎先生、赤尾先生が執筆。

・多職種連携による支援体制

梅川先生は、虐待の事例を通して、校内連携・機関連携について、具体例を紹介しています。さらに、枝廣先生が執筆。

学会活動編：築瀬先生が、学校カウンセラーやガイダンスカウンセラーの役割と実践活動について紹介しています。

ぜひ、お読みいただき、周囲に広めてください！

（文責：副会長 梅川 康治）



『学校教育相談 理論と実践のガイドブック』（ほんの森出版）刊行記念

各支部向け 特別呼びきのご案内

日本学校教育相談学会が総力をあげて企画した『学校教育相談—理論と実践のガイドブック』が刊行されました。刊行記念として、【各支部で10冊以上】注文がまとまった場合、ほんの森出版に【直接】申し込むと、【2割引き】になります（【送本は1箇所、送金はまとめて】となります）。

申し込み期限は【2025年4月30日】です。

一般社団法人 日本学校教育相談学会／企画
春日井敏之・梅川康治・栗原慎二・藤原忠雄／編著
定価2,200円 → 割引価格1,760円(税込)

送料無料！

メール（chumon@honnomori.co.jp）やFAX（03-5918-8146）で、下記の情報を各支部よりほんの森出版に直接伝えてください。

①冊数、②送り先住所、③担当者名前、④電話番号（郵便振替用紙を送りますので、支払いは書籍到着後に）

【問い合わせ】

ほんの森出版・小林（電話03-5754-3346）

★会長コーナー

企画から1年半を経て、この度『学校教育相談—理論と実践のガイドブック—』（ほんの森出版）が発刊されました。編集委員会を代表して、19名の執筆者の方々、ほんの森出版の小林敏史さんには、心より感謝申し上げます。理論編は1編6頁、実践編は4頁、学会活動編は6頁とコンパクトにまとめられています。改訂された生徒指導提要进行をベースに、幅広く学校教育相談を捉えて、教育現場で実践していただくヒントがたくさん詰まっています。各支部での研修等にも活用していただきますよう、お願いいたします。各支部では、割引販売を活用し、新刊をすべての会員のみなさんが手にしていただき教育実践に生かし、周囲の方々にも広めていただくことを願っています。そのことで、学会に新しい仲間を増やしていただければと期待しています。

これに伴い、会長・副会長会、役員会で議論した結果として、現在HPで掲載中の「研修テキスト」については、その役割に一区切りをつけさせていただきます。「研修テキスト」は、2008年に作成委員会が立ち上がり、会員の総力を挙げて執筆され、2015年からHPにも掲載されてきました。支部での研修や学校カウンセラーの資格認定・更新のための研修にも活用されてきましたが、この間の認定・更新制度の見直しにより、その点においても役割に一区切りをつけさせていただくこととなっています。今後は、『学校教育相談—理論と実践のガイドブック—』の活用を、どうぞよろしくお願いいたします。

（文責：会長 春日井 敏之）



★事務局より

○10月19日（土）に支部事務局長会を実施しました。今回は、源泉徴収の扱い方について本部より説明をしました。本法人の相談役である税理士の先生からも専門的な立場から説明をしていただきました。後半は、ブロック別に分かれて、支部の現状や会員増加に向けた取り組みなどを交流しました。年に一度の機会ですが有意義であるとの感想を受けています。今後も継続して実施していきます。

○第35回中央研修会も無事に終わることができ

ました。午前に4つの講座、午後からはパネルディスカッションとオンライン交流会を行いました。多数の皆様に参加していただき、ありがとうございました。

○令和7年8月にある全国大会（京都大会）の二次案内が出ました。昨年度に引き続き、対面方式で実施します。既に実践事例・研究発表の申込みが始まっています。締切が5月9日（金）までとなっています。ご希望方は、京都大会実行委員会事務局長あてにメールで申込むことになっていますので、よろしくお願いいたします。

（文責：事務局長 木村 正男）

★おくやみ

本学会 名誉会長 今井五郎先生が、令和6年11月12日にお亡くなりになりました。

今井先生は、1999年から4年間、本学会会長を務められました。また、「学校教育相談学ハンドブック」ほんの森出版（2006）刊行図書編集委員会委員長としてご尽力いただきました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

★編集後記

稚拙な巻頭言はともかく、大事な研究大会案内や中央研修会報告、各支部でご活躍の会員やスクールカウンセラーの取り組み、各専門委員会等の情報、そして、学会新刊の情報と、充実したラインナップになりました。執筆、編集・校正に関わった皆様、大変お世話になりました。

（文責：広報委員長 松本 直美）

一般社団法人日本学校教育相談学会 会報
第76号

令和7年3月20日発行

発行 一般社団法人 日本学校教育相談学会
会長 春日井 敏之

編集 一般社団法人 日本学校教育相談学会
広報委員会 委員長 松本 直美

事務局 〒179-0073

東京都練馬区田柄3-11-28

一般社団法人 日本学校教育相談学会事務局

電話/FAX 03-3926-7386

HP <http://www.jascg.info/>